



会社概要

(2021.2.28現在)

会社名	株式会社イズミ
本社所在地	広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
資本金	196億1,385万円
設立	1961年10月27日
従業員数	正社員 2,907人 パートタイマー 5,971人(1日8時間換算)
店舗数	109店舗(エクセル単独店舗含む)
店舗地域	広島県、岡山県、山口県、島根県、福岡県、佐賀県、大分県、長崎県、熊本県、兵庫県、香川県、徳島県 他
事業内容	ショッピングセンター、ゼネラル・マーチャндаイジング・ストア(GMS)、スーパーマーケット等の業態による衣料品、住居関連品、食料品等の販売およびインポート事業
グループ会社	(株)ゆめカード(クレジット・金融事業) (株)イズミテクノ(店舗施設管理) イズミ・フード・サービス(株)(外食) 他

作成部署およびお問い合わせ先

株式会社イズミ 顧客サービス部
〒732-8555
広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
TEL 082-264-3211(代)
URL <https://www.izumi.co.jp/>

you
me

you
me

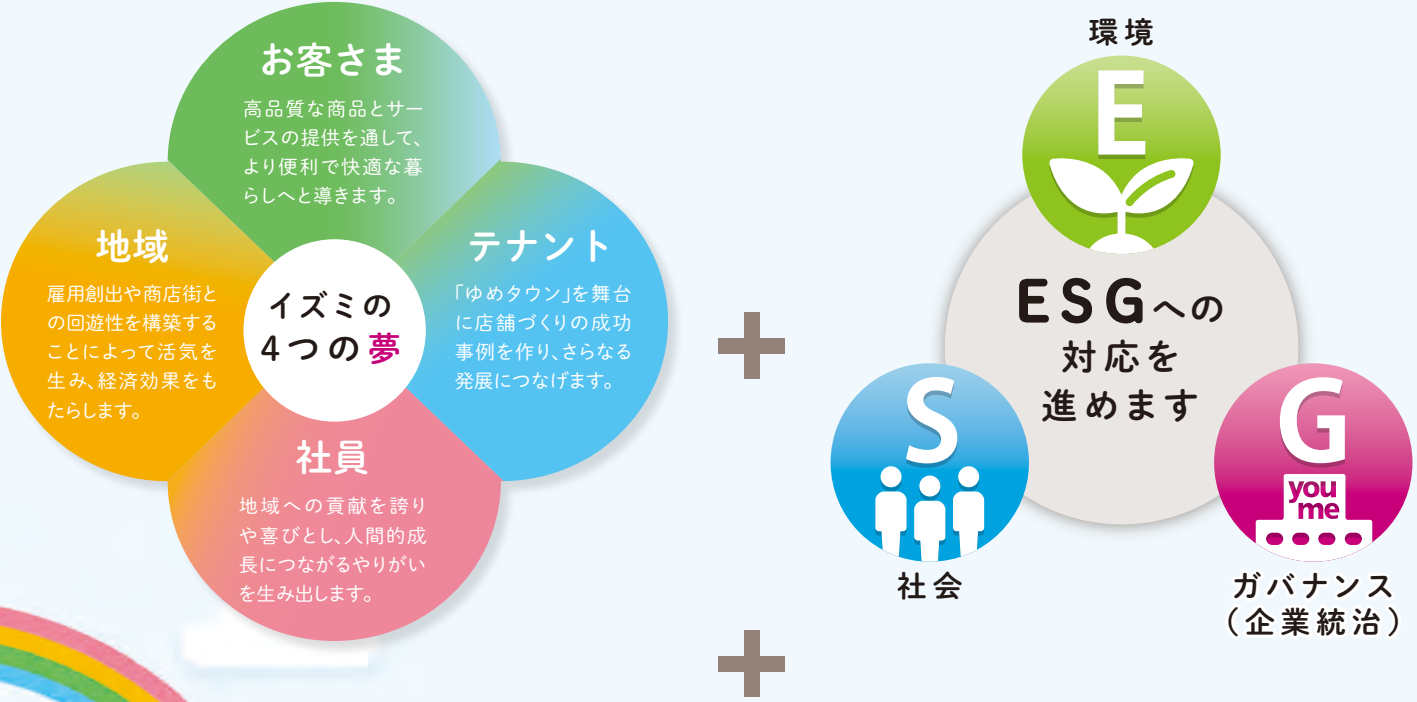
イズミグループ 社会・環境報告書 2021

ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY REPORT

どんな時も、夢を愉しむ

2021年、イズミは創業60周年を迎え、 新たな夢の実現へ、これからも貢献し続けます。

2021年、おかげさまでイズミは創業60周年を迎えました。
これからも積極的なアクションで変化に対応し
「you meあふれる未来」そして
「サステナブルな未来」に向けて
みなさまの夢の実現へ、さらに貢献していきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	

社会・環境報告書の作成にあたって

●編集方針
イズミでは、CSR（企業の社会的責任）に関わる取り組みを多くの方々にご理解いただくために、社会・環境報告書を作成しています。
報告項目の選定に当たっては、ステークホルダーのみなさまの関心事と、イズミが事業活動として重視している事項を考慮して取捨選択し、本書にまとめています。
内容としては、CSR活動の中心である店舗・従業員の活動をメインに取り上げています。
記事の作成に当たっては、読みやすさ、理解しやすさに配慮し、写真やグラフ、図などを積極的に取り入れています。
【最新情報について】イズミホームページにて、最新の取り組みや詳細な情報を紹介しています。併せてご覧ください。URL <https://www.izumi.co.jp/>

●報告書の発行
今回の発行
2021年7月（2020年3月1日～2021年2月28日の取り組み内容）
※一部、2020年3月以前、2021年3月以降の取り組みについても報告を行っています。
次回の発行予定
2022年7月（2021年3月1日～2022年2月28日の取り組み内容）
●報告書の対象
株式会社イズミの取り組みを基本として、グループ会社も一部含まれています。
●対象読者
お客さま、店舗の近隣住民のみなさま、行政、お取引先様、株主のみなさま、学生、NPO、NGO、投資家のみなさま、従業員など

c o n t e n t s	you me MIRAI宣言	3
	第二次中期経営計画	5
	トップメッセージ	
	株式会社イズミ 代表取締役社長 山西 泰明	7
	イズミの4つの夢	
	お客さまが笑顔になれる空間を	9
	地域にさらなる活気と経済効果を	13
	テナント様と共に一層の飛躍を	17
	社員が意欲を発揮できる環境を	19

イズミ エコ・アクション2021	
脱炭素社会に向けて	23
省資源化を進めるために	25
持続可能な発展に向けたCSR活動	
基本方針を全従業員で遵守	27
株主のみなさまと積極的に対話	28
効果的なチェック体制を構築	29
私たちの「you me」が これからも続いていきますように	30

you me MIRAI 宣言

イズミグループのSDGs

2015年に国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)
持続可能なMIRAIのた
サステナブルなお店づくり・街づ

推進に向けた取り組み

標)は、2030年までに達成をめざす17の目標を掲げています。
めに私たちができること。
くに全力で取り組んでいきます。

お買物 × MIRAI

デジタル技術でより便利に快適に

ゆめオンラインをパワーアップ

- 機能を拡充させ、生鮮食品の取り扱いも開始し、共働き・高齢化社会に対応していきます。さらにお客さまと生産者が直接つながり注文できる産地直送サービス「ゆめマルシェ」も立ち上げていきます。

店舗でうれしいゆめアプリへ

- 店舗でお買物のお客さまそれぞれのスマホに、リアルタイムにお買得情報をお届けします。
- お買物履歴をもとに、そろそろ無くなる食材などを予測。お買物リストやメニューを提案する機能も検討中です。
- フードコートでは席の予約や、事前注文&決済で並ばず商品の受け取りもできるように検討しています。



キャッシュレス決済可能な「買物カート」

- お客さまご自身で商品バーコードをスキャン。レジを通過せず買物カートでお買物を終えることが可能です。



デジタルサイネージのさらなる活用

- 駐車場や店内の混雑状況をリアルタイムで表示。店内案内の多言語対応も可能にしていきます。
- カメラでお客さまを認識。そのお客さまに最適なお買物情報等をリアルタイムでサイネージに表示していきます。

対応する目標
(SDGs)



お店づくり × MIRAI

ニューノーマルに対応

開放感あふれる空間を

- 吹き抜けの採用や、自然の風が通り抜ける設計など、開放的な空間を実現。イベントができるオープンスペースを用意しながら、ニューノーマル時代にふさわしい店舗づくりを行います。

店舗と自然の融合

- 店舗でのお買物を楽しむだけでなく、子どもから大人まで家族全員で自然を感じられるお店をめざします。

ピックアップサービスを可能に

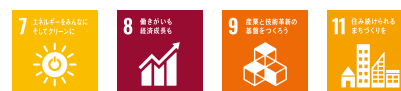
- ネットで注文した商品の店舗受け取り&ドライブスルー受け取りを可能にし、ショートタイムショッピングを実現します。

ライブコマース(動画接客)サービス

- ビデオ会議システムを活用した遠隔接客サービスも積極的に活用。店舗のスタジオから、魅力的な商品の紹介動画を、お手元のスマホ・タブレット・PCにお届けします。



対応する目標
(SDGs)



地域 × MIRAI

新しい時代に向けたサービスを

店舗が一つの街に

- 少子高齢化が進むなか、地域の社会インフラや街のにぎわいを守っていくため、店舗内に行政サービスやクリニックモールなどの機能を備えたコンパクトシティづくりをめざします。

地域を元気に

- 地域のプロスポーツチームや観光施設とのコラボレーションなど、地域ならではの取り組みを積極的に推進していきます。



ライフラインとして

- 蓄電池の導入など、災害時でも店舗運営を継続できる形をめざし、いざという時でも生活必需品などを供給していきます。
- 行政・自治体と連携し、災害時における物資協定・避難施設協定を結び、店舗や駐車場を避難場所として提供します。

高齢のお客さまを支援

- 自力でのご来店が困難なお客さまに向けてモビリティサービス(店舗送迎サービス)を導入します。
- 生活習慣病を予防するため、購入したお買物リストとアプリを連動させ、アプリ内で健康管理ができるウェルネスサービスを可能にします。

対応する目標
(SDGs)



持続可能なMIRAIへ

サステナブルな企業をめざす

脱炭素社会をめざす

2030年までに達成すべき目標:
CO₂排出量30%削減(2013年度比)

- 太陽光パネル設置店舗を拡大し、再生可能エネルギーの活用を進めます。
- 熱源設備(空調設備、冷凍・冷蔵設備)の変更による省エネルギーを推進します。

プラスチックの削減対策

2030年までに達成すべき目標:
プラスチック製包装資材80%削減(2018年度比)

- 食品レジ袋をバイオマス配合に変更(さらに環境に優しい植物由来の素材に変更も検討しています)。
- 地域のリサイクル拠点として、店頭リサイクル回収を促進します。

商品・原材料のムダを削減

2030年までに達成すべき目標:
食品ロス50%削減(2018年度比) 食品リサイクル率70%

- 需要予測型AI発注システムの導入により、お客さまが求めている商品を適正な発注量でお届け。食品ロス削減に取り組みます。
- 人や社会・環境に配慮した消費行動である「エシカル消費」に力を入れます。
- 店舗から排出される食品残渣(売れ残り、消費期限切れなど)のリサイクル量を増やします。

人材の充実と活躍の機会の提供

2023年までに達成すべき目標:女性管理職比率20%

- 子育てと仕事の両立を支援します。「ゆめたうん保育園」の導入拡大(子どもと一緒に出勤でき、気になった時に顔をすぐ見られるメリットもあります)。
- テレビ会議機能やモバイル端末を使ったWEB教育の活用を進めます。
- 外国人のお客さま・従業員に対応するための多言語翻訳サービスを導入します。

対応する目標
(SDGs)



第二次中期経営計画

2021年4月、イズミは第二次中期経営計画（2021年3月～2026年2月）を発表しました。
地域に貢献し、地域とともに成長する5カ年の計画を推進し
経営ビジョンに示した“イズミのありたい姿”を確実に実現していきます。

経営ビジョン

理想とする“イズミのありたい姿”

新経営理念

社員が誇りと喜びを感じ、
地域とお客さまの生活に貢献し続ける

2030年長期ビジョン

- ゆめ(you me)あふれる地域との共創への挑戦
- 中四国・九州エリアを軸にした300店舗体制の実現
- 営業収益1兆円、売上高営業利益率6.0%を達成(2031年2月期)

計画策定の背景と今後の方向性

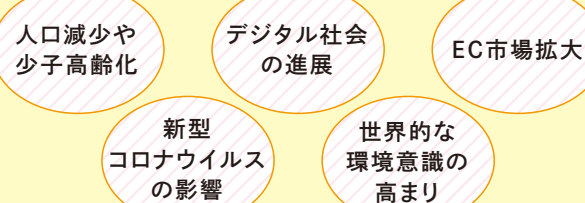
■ 第一次中期経営計画の振り返り

対象期間である2018年からの3カ年は、度重なる災害や新型コロナウイルスの影響により、社会・経済活動に落ち込みが見られました。急速なデジタル化の進展や環境意識の高まりにより、消費行動も大きく変化。イズミではコスト構造改革や生産性向上などの対策をとりましたが、ニューノーマル時代にふさわしいSM・GMS運営、デジタル化への対応など、課題は多数残りました。

■ 強みを生かす第二次中期経営計画

新たな計画策定に向けて、人口減少やDX(デジタル技術による業務やビジネスの革新)、サステナビリティなどの外部環境の変化を整理し、課題を抽出。第二次中期経営計画では、イズミの強みである現場力や変化対応力、地域でのブランド力を生かして解決していきます。ESGに対する姿勢も盛り込んだ計画を全従業員で共有。新経営理念や2030年長期ビジョンの実現に向けて実践していきます。

外部環境の変化



イズミの強み

現場力 変化対応力 地域での基盤

第二次中期経営計画

第二次中期経営計画

経営ビジョンを念頭に、5カ年で推進

事業戦略

1 SM(食品スーパー)改革

イズミグループの事業の柱として育てるため、次世代型のSM開発や、店舗網の拡大、ローコスト運営の実現などを推進。デジタル化によるサービス向上や地域の拠点づくりで、お客さま満足度を高めます。



2 GMS(ショッピングセンター)改革

店舗主導で既存店のリニューアルを行い、地域と連携し、お客さまに感動を与える施設へと進化。新規出店する2店舗は、デジタルとリアルを融合させ、ニューノーマル時代にマッチした施設をめざします。



3 DXで「利益成長」と「地域・未来への寄与」を両立

■ 笑顔あふれるお店づくり

2021年4月配信の新「ゆめアプリ」に、決済・デジタルクーポンなどの便利な機能を搭載。通販サイト「ゆめオンライン」は「店舗連動型セレクト通販」として拡充し、食料品や日用雑貨などを配送する「ゆめデリバリー」も立ち上げ、地域のお客さまの利便性を高めます(2021年6月開始)。



■ 働きやすい職場づくり

DXを推進し、需要予測発注による作業効率アップや、基幹システム刷新による在庫水準の適正化など、業務改革の効果を幅広い領域で具現化します。生産性の改善により創出した余剰時間は、人材育成のための教育に活用。現場力を強化するとともに、モチベーション向上につなげます。



■ 未来への仕組みづくり

東広島市で実施されている、MaaS(IoTやAIを活用した新しいモビリティサービス)の実証実験に、東広島市や広島大学などとともに参画。今後、地域の皆さまのお買物をサポートするため、高齢者の店舗送迎サービスや、タクシーを利用した買物代行サービス、移動販売などの実現をめざします。



4 グループ経営の強化

グループ会社の経営効率向上だけでなく、小売周辺事業はグループ外への進出を進め、「グループ経済圏」を拡大。また、M&Aや業務提携により成長スピードを加速させ、事業領域の拡大も図ります。

ESG戦略

2030年までの達成をめざす「you me MIRAI宣言」(詳細はP3-4を参照)への取り組みに注力。グループ内部統制の効果的な実施や、独立社外取締役増員などで、コーポレート・ガバナンスを強化します。

財務戦略

経営環境の激変リスクに備えつつ、5年間で1,500億円の投資資金には自己資金および有利子負債を活用。株主の皆さまへの還元については安定配当を基本とし、配当性向は30%を目標とします。

次世代にも信頼される 企業へ、持続可能な店づくりを

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活が激変した1年でした。イズミでは、お客さまと従業員の安全を最優先し、大幅な営業時間の短縮や、従業員のマスク着用・手指衛生を実施。飛沫感染防止パネルなども設置し、小売業の使命であるライフラインの維持に努めました。今後もお客さまにご理解をいただき、感染拡大防止に取り組んでまいります。

これから私たちは、アフターコロナの時代や少子高齢化、デジタル化への対応を進めます。国連のSDGsを指針として、持続可能な店づくり・地域づくりに挑戦する姿勢を、2020年11月に「you me MIRAI宣言」として発表。リアル店舗ならではの価値を高め、開放的でイベントなども実施できる空間をつくっていきます。また、日々進化するデジタル技術を積極的に取り入れ、お客さまへのサービス向上・業務の生産性向上を推進。同時に従業員の意識改革を進め、「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」といったSDGsの17の目標を、日々の業務に反映していきます。例えば食品ロス削減は本来、原料の生産や加工、廃棄などにかかるエネルギーの無駄を省いて環境負荷を低減し、さらに食料資源を有効活用するために取り組むべきこと。私たちは、業績優先の考え方を改め、仕事を通じて社会貢献する企業へと、急ピッチでシフトを進めています。

イズミが大切にしてきた「4つの夢」は、SDGsと同じ方向を向いています。「お客さまに、より便利で快適な暮らしをお届けしたい」「地域に雇用を創出し、活気を生み出したい」「テナント様やお取引先様に、さらなる発展をしていただきたい」「社員に人間的成長とやりがい」という思いを実践することが、持続可能な

よりよい未来へとつながります。さらにESG（環境・社会・企業統治）の視点も導入し、リサイクルや省エネなどで循環型社会を進化させ、収益向上による株主のみなさまへの還元にも配慮。イズミにつながる全てのステークホルダーのみなさまの「夢」と共存共栄していきます。

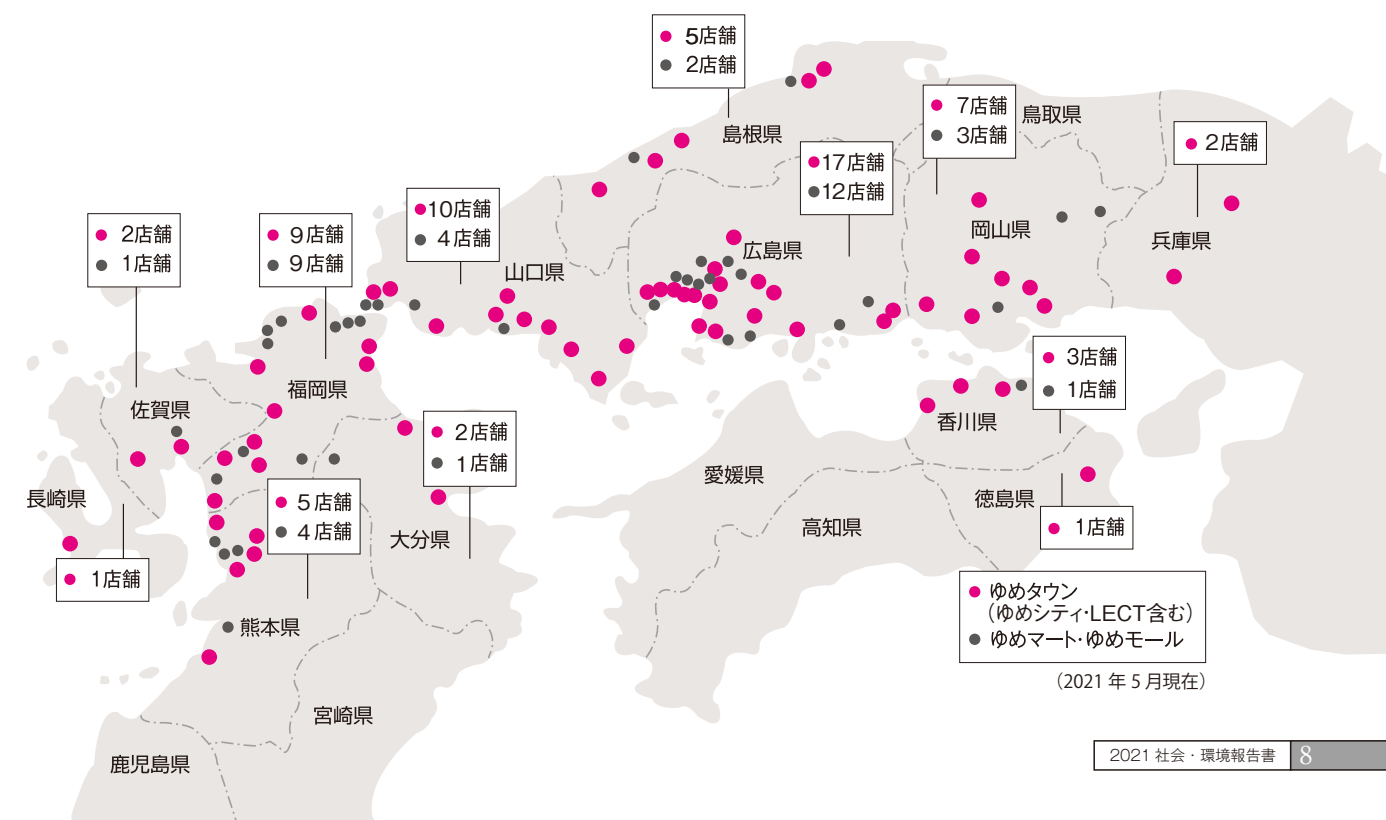
2021年、イズミは創業60周年を迎えました。この節目の年はゴールではなく、70年、80年、100年に向けた新たなスタート地点です。これから私たちは、店舗・品ぞろえ・サービスの質にこだわり、顧客満足度を高めていきます。また誠実に粘り強く、社会・環境問題の解決に貢献。次世代にも信頼され、愛されるイズミをめざして、私たちは情熱を胸に挑戦を続けます。

株式会社イズミ 代表取締役社長
山西 泰明

イズミ経営理念

社員が誇りと喜びを感じ、
地域とお客さまの生活に貢献し続ける。

創業60周年を機に、新たな経営理念を定めました。
地域と共に成長していくという創業以来の思いを、
これからも実践していきます。





お客さまが笑顔になれる空間を



安らぎの空間に、人が集い、遊ぶ 三世代向け大型商業施設「ゆめタウン」

「地域の人々が集う街を」というコンセプトで、1990年に誕生した「ゆめタウン」。三世代を意識した多彩な品ぞろえ・サービスと、ゆとりある空間が好評です。「ゆめタウン廿日市」では、店舗に隣接して「ゆめ桜公園」を整備。公園は地元行政との共同運用で、イベントを多数開催し、笑顔あふれるスペースになりました。誕生30周年を超えた「ゆめタウン」では、これからも人が集い、遊ぶ、安らぎの空間づくりに取り組んでいきます。



「ゆめタウン」誕生30周年特設サイトで多様なエピソードを紹介

2020年は
ゆめタウン誕生から
30周年

教育を実施し食品衛生を徹底

食品の衛生管理を徹底するため、イズミでは外部機関による衛生調査の指導を受けた食品品質チェッカーを全店に配属。毎日午前11時と午後3時に品質鮮度と産地表示を欠かさずチェックしています。管理職向けには、表示勉強会を定期的に開催。また「ゆめタウン倉敷」では「品質ミーティング」の時間を作業割当に組み込み、スタッフの意識を高めて鮮度管理に当たっています。



定時に行う品質チェック



広島市保健所から講師を迎えた表示勉強会



「ゆめタウン倉敷」の「品質ミーティング」の様子

店頭にAED設置 救命救護訓練も実施

「ゆめタウン」「ゆめマート」全店、そして2020年にデイリーマートでも全店にAED（自動体外式除細動器）を設置。併せて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した救命救護訓練を実施。美馬市消防本部の指導を受け、「人工呼吸は行わない」「口と鼻にハンカチをのせる」などに注意しながら、お客さまと従業員の命を守るために練習を重ねました。

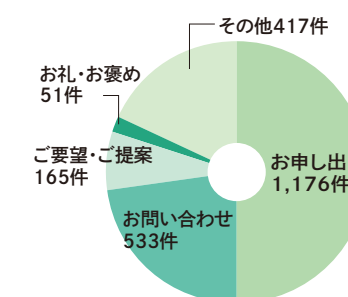


救命救護訓練でAEDの使用法を実習

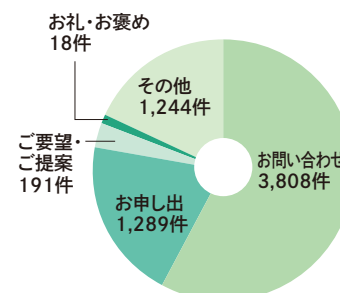
「お客さまの声」を商品・サービスに反映

本社「お客さま相談室」へのフリーダイヤルや店頭「お客さまの声」用紙、ホームページ経由でのお申し出は、店舗運営に役立つ大切なご意見です。本社の「お客さまの声をお聴きするプロジェクト」メンバーが検討し、商品・サービスに反映しています。

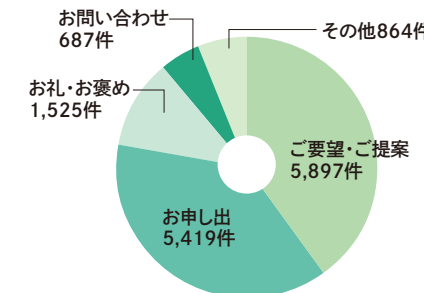
■2020年度ホームページ年間実績
合計 2,342件



■2020年度フリーダイヤル年間実績
合計 6,550件



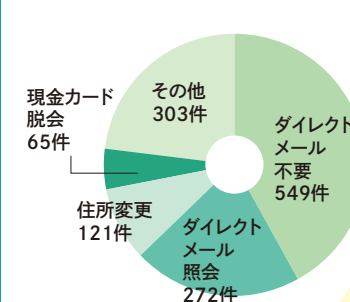
■2020年度店舗での「お客さまの声」年間実績
合計 14,392件



個人情報を守る プライバシーポリシー

会員カードのご記入やギフトの発送、商品予約など、店頭ではご住所やお名前、電話番号などの個人情報をお預かりする機会があります。イズミでは、プライバシーポリシーを制定して個人情報を慎重に管理。全社員がルールを学び、店舗で実践しています。

■2020年度個人情報専用ダイヤル
年間実績
合計 1,310件





お客さまが笑顔になれる空間を

街づくりに貢献 「ゆめタウン東広島」リニューアル

1990年に誕生した「ゆめタウン東広島」は、2020年に開業30周年を迎えました。長年のご愛顧に感謝し、2020年10月から翌夏にかけて大規模活性化を行っています。新規テナント様の導入やトイレのバリアフリー化、イートインコーナー開設など、快適な店づくりを実践。大規模なフードコートも誕生予定です。

「ゆめタウン東広島」の出店以来、東広島市とイズミは協力して街づくりを進めてきました。2020年10～11月に開催した「30周年記念写真展」は、地域と共に歩んだ歴史を振り返り、従業員も達成感を得る機会に。東広島市とは現在、自動運転車の実証実験も合同で進めており（詳細はP15で紹介）、今後も連携を深めていきます。



新規テナント様を導入し、にぎわう「ゆめタウン東広島」



新設のイートインコーナー



「30周年記念写真展」の様子

マイナポイント事業でキャッシュレス推進

総務省が2020年9月に開始した「マイナポイント」事業に、電子マネー「ゆめか」も参画しました。「マイナポイント」の付与を受ける決済サービスとして「ゆめか」を選択した方に、2万円のチャージでその25%分のポイントを付与。イズミ独自で期間限定のポイント上乘せキャンペーンも行い、キャッシュレス決済推進に貢献しました。



「マイナポイント」を告知するポスター

「ザ・値下げ1000品目」で暮らし応援

2020年6月1日より、イズミグループ全店で「ザ・値下げ1000品目」がスタート。食料品1,000品目を従来価格から最大3割程度値下げしました。コロナ禍で雇用や家計に対する不安が広がる中、お客さまの生活を支援したいという思いと、三密を避ける安全・安心の店舗運営が目的です。



「ゆめタウン広島」で記者会見をするイズミの梶原雄一朗専務

クレジットカードの安全対策で認証取得

株式会社ゆめカードは、クレジットカード「ゆめカード」の情報流出などのリスクの低減に努めています。カード会員さまのデータを守るために有効とされるPCI DSS審査を毎年受け、認証を取得。2019年にも約400のチェック項目をクリアし、認証を取得しました。



認証取得を進めるPCI DSS事務局メンバー

コロナ危機を乗り越ろう

お客さまにご協力いただき、接触感染を防ぐ対策を実施

■透明の亚克力板を設置／マスク・手袋を着用
レジカウンターのお客さまと従業員の間に、飛沫・飛散感染を防ぐため、亚克力板を設置しています。



■金銭の受け渡しにトレーを使用
金銭の受け渡しは、接触感染を防ぐため、トレーを使用しています。



■レジ待ちの靴型シールの表示
お客さま同士の社会的距離を確保するため、レジ前通路に靴型シールを表示しています。



■サッカー台の間隔を拡大
イートインを封鎖してサッカー台の間隔を拡大。袋詰めの際もお客さま同士の社会的距離を確保しています。2時間ごとに消毒も実施。
※現在、イートインはご使用いただけます。



セブンプレミアム商品販売開始

2020年3月2日、イズミグループの店舗でセブンプレミアム商品の販売が始まりました。当日は、「ゆめタウン広島」「ゆめタウン高松」「ゆめタウン博多」「ゆめタウン光の森」でお披露目を開催。お客さまにセブンプレミアムの人気商品をプレゼントしました。



「ゆめタウン光の森」では原屋教利支配人があいさつ



チルドのバック惣菜を豊富に品ぞろえ



人気のお菓子やカップ麺

HACCP対応のゆめデリカ新工場

2020年10月8日、ゆめデリカ深川第二工場（広島市安佐北区）の竣工式と工場見学会が開催されました。新工場には最新機器を導入し、食品衛生管理の国際基準HACCPにも対応。より衛生的な環境で、お客さまのニーズにあった惣菜を製造していきます。



安全・安心の商品づくりを進める新工場

新サービスで利便性向上を図る

現在、店舗に導入を進めているタブレット付きショッピングカート「ゆめピ!」。画面に売場マップやレシピ、クーポンなどを表示し、情報を見ながらお買物ができます。また、スマートフォン決済サービスPayPayへの対応や、買物のついでに荷物を持ち帰れる宅配ロッカーの設置などで、お客さまの利便性向上に努めています。

ゆめピ!
Powered by ショッピングカート



クーポンが表示される「ゆめピ!」



店頭の宅配ロッカー



地域にさらなる活気と経済効果を



女子ハンドボールの実業団チーム「イズミメイプルレッズ」が躍進

広島の皆さんにクラブチームとして愛されてきた「広島メイプルレッズ」は、2019年4月に実業団チーム「イズミメイプルレッズ」として生まれ変わりました。選手たちは全員、イズミグループの企業に勤務し、仕事と競技を両立しています。2020-21シーズンは一致団結して戦った結果、日本ハンドボールリーグでプレーオフに進出し3位に入賞しました。また、小・中学生対象の「イズミメイプルレッズジュニア」の運営や、小学校でのハンドボール教室などで、アスリートを育成するとともに、地域のスポーツ振興に努めています。



2021年新加入メンバーを迎えて張り切る選手たち



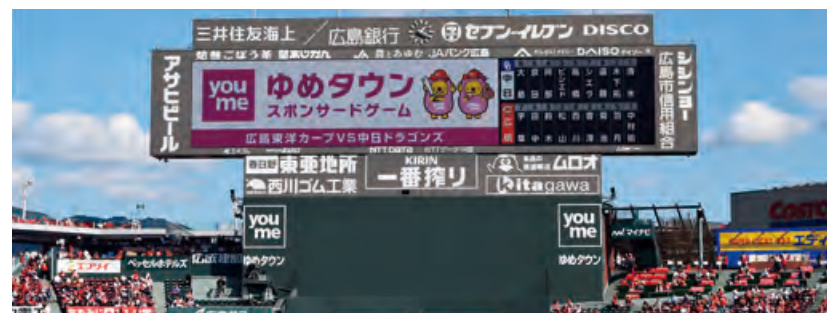
小学校でのハンドボール教室の様子

オンラインでカープファン感謝デー

イズミは広島東洋カープのオフィシャルスポンサーです。2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しながらチームを支援しました。10月18日には、観客席数を制限して恒例の「ゆめタウンスポンサードゲーム」を開催。11月28日には、イズミ本社がオンライン形式のカープファン感謝デーの会場になり、抽選で選ばれたお客さま約40名が、画面越しに選手と交流しました。



現役選手やOBがスクリーンに登場



青空の下で開催されたスポンサードゲーム

サンフレッチェ広島のスポンサードゲーム

2020年11月14日、エディオンスタジアム広島でサンフレッチェ広島の「ゆめタウンスポンサードゲーム」を開催しました。コロナ禍での開催とあって、毎年実施している選手とのハイタッチは中止。その他にもいろいろと制限がある中での試合でしたが、横浜FCとの対戦は大いに盛り上がりしました。



抽選で選ばれたお客さまが記念撮影

広島ドラゴンフライズを支援

イズミ本社で2020年9月9日、プロバスケットボールチーム「広島ドラゴンフライズ」のダイヤモンドパートナー契約締結の調印式を行いました。締結書への署名ではなく、バスケットボールのバスで契約を締結。広島で地域スポーツ発展に尽くすチームを、イズミは強力にサポートすることを約束しました。



広島ドラゴンフライズの浦伸嘉社長(右)とイズミ構造改革本部の溝口晋本部長

泉美術館で開催 明田弘司写真展

泉美術館は、洋画、日本画、彫刻などを気軽に鑑賞できる空間です。2020年10月23日～12月13日には「没後五年 明田弘司写真展 昭和を歩く」を開催しました。戦後広島島の復興期に撮られた写真の数々を展示。活気ある街や生き生きと暮らす人々の姿を見ようと、会期中には広島市の松井一實市長も来館されました。



熱心に鑑賞する来館者の皆さん

イズミテクノが運営 東広島市立美術館

2020年11月3日、イズミグループの株式会社イズミテクノが指定管理を行う、東広島市立美術館が移転オープンしました。新たな文化交流施設として市民のみなさんから大きな期待が寄せられ、開館記念式典には東広島市長をはじめ来賓の方々が多数参列されました。その期待に応えるため、スタッフ全員が管理運営体制の充実に一丸となって取り組み、ワークショップなども開催しています。



大きな窓から光が差し込む開放的な建物



地域にさらなる活気と経済効果を

2020年7月豪雨 7市村へ復興支援金

2014年の広島市土砂災害、2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨と、近年、自然災害による被害が多発しています。イズミでは、1日も早い地域の復興に向けて、さまざまな支援活動を行っています。2020年の7月豪雨では、熊本県を中心に河川氾濫などが発生し、「ゆめマート人吉」も浸水しました。イズミグループは2020年7月9日～31日に店頭募金を実施し、5,976,039円を日本赤十字社に寄託。またイズミより6,000万円の復興支援金を7市村に贈呈しました。



浸水した「ゆめマート人吉」



人吉市の松岡隼人市長(右)と
ゆめマート熊本の山野正道社長

復興支援金の贈呈先

	贈呈先	支援金額	贈呈日
熊本県	人吉市	3,000万円	9/ 3
	八代市	1,000万円	9/ 2
	球磨村	1,000万円	9/ 3
福岡県	大牟田市	500万円	8/28
	久留米市	200万円	9/ 1
大分県	日田市	200万円	8/28
島根県	江津市	100万円	8/26

期日前投票所を 店頭へ開設

「ゆめタウン廿日市」では、2021年3月28日の廿日市市議会議員一般選挙に先立って、22日～27日に期日前投票所を開設しました。投票日に予定がある方や、投票所の混雑を避けたい方などにご利用いただき、投票率の向上に貢献することが目的です。「お買物帰りに投票ができて便利」とお客さまに喜ばれました。



「ゆめタウン廿日市」の期日前投票所の案内

三原市久井町産原料の ポテトチップスを販売

2020年8月10日に、カルビー株式会社の協力により「生産者限定ポテトチップス」をイズミ限定で発売しました。ジャガイモの産地は、三原市久井町のみ。2018年の西日本豪雨により深刻な浸水被害を受けた三原市の復興を支援するため、イズミとカルビーは売上金額の一部を寄付しました。



売場にずらりと並べて販売

生産者支援に向け 「とまえメロン」販売

2020年9月11日～13日に、北海道苫前町のメロン生産者のみなさんを応援するため、ブランドメロン「とまえメロン」を格安価格で販売しました。新型コロナウイルス感染症の影響により贈答用メロンの需要が激減する中、イズミグループ103店舗で販売し、生産者のみなさんをサポート。また「上質なメロンが手頃な価格で買えた」と、大勢のお客さまに喜んでいただけました。



6店舗でゆめタウンアプリ会員限定の
プレゼント企画も実施

お買物支援の新サービス 東広島市で実証実験

2020年12月4日、ITを活用した送迎や、自動運転車を使った商品宅配の実証実験について、東広島市と広島大学、モネ・テクノロジーズ株式会社、イズミが合同で発表。イズミでは、2021年2月より「ゆめタウン学園店」に電話で注文した商品を、乗客のいるバスに載せて指定場所に届ける実験をスタートしました。



「ゆめタウン学園店」で貨客混載実験を行う車両

コロナ危機を 乗り切ろう

広島大学と協定 新型コロナ待機学生に食料品配達



広島大学の越智学長(左)と山西社長

2020年11月26日、広島大学とイズミがコロナ禍に対応した協定を結びました。同大学で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した際、自宅待機となった学生や職員の自宅へイズミが食料品などの生活物資を届けます。国立大学では初の試みで「新しい生活支援のモデルケースになる」と越智光夫学長。山西社長は「暮らしを守るため、生活に欠かせない物資の安定供給に努める」と説明しました。



来賓やメディアが
見守る中 協定書にサイン

新店出店へ 福岡県飯塚市と協定

2020年11月27日、福岡県の飯塚市と大型商業施設の立地に関する協定を締結。飯塚市への「ゆめタウン」出店を計画しているイズミは、市と連携して地域活性化を進めることを確認しました。



飯塚市の片峯誠市長(左)と山西社長

あらおシティモールに 市立図書館が入館

2020年11月5日、熊本県の荒尾市と紀伊國屋書店、荒尾シティプランが連結協定を締結。市立図書館の老朽化に伴い、2022年春にあらおシティモール(核テナントは「ゆめタウンあらお」)へ移設することが決まりました。



荒尾シティプランの社長を兼任する、
イズミの梶原雄一朗専務(右)が参加

地域の発展へ行政と連携

産業振興や市民サービスの向上、防災など、地域が直面している課題の解決に向けて、イズミでは県や市町などとの連携を進めています。万が一の災害に備えた協定も、各地の行政と締結。地震や台風、豪雨災害などの際には、物資供給や避難場所提供などの支援を行っています。

行政との協定一覧

包括協定		
県名	締結日	
広島県	2011年9月6日	
熊本県	2011年12月20日	
廿日市市(広島県)	2015年6月6日	
山口県	2016年9月1日	
周南市(山口県)	2016年9月30日	
広島大学(広島県)	2017年4月19日	
宗像市(福岡県)	2017年10月26日	
災害時における物資協定		
県・市・町名	締結日	
香川県	2005年11月14日	
福岡県	2006年3月28日	
広島県	2006年10月5日	
佐賀県	2006年11月27日	
熊本県	2007年1月10日	
山口県	2007年1月18日	
島根県	2007年3月20日	
長崎県	2007年9月21日	
菊陽町(熊本県)	2007年2月1日	
合志市(熊本県)	2007年6月1日	
高松市(香川県)	2007年11月21日	
防府市(山口県)	2008年5月22日	
瀬戸内市(岡山県)	2008年6月1日	
丸亀市(香川県)	2008年11月17日	
宗像市(福岡県)	2009年4月1日	
大牟田市(福岡県)	2009年9月1日	
熊本市(熊本県)	2010年5月24日	
大川市(福岡県)	2011年7月21日	
藍住町(徳島県)	2011年11月21日	
災害時における物資協定		
市・町・施設名	締結日	
遠賀町(福岡県)	2011年12月1日	
行橋市(福岡県)避難施設含む	2012年2月1日	
広島市(広島県)	2012年2月22日	
井原市(岡山県)	2012年5月8日	
八女市(福岡県)	2013年2月1日	
佐賀市(佐賀県)	2013年3月21日	
うきは市(福岡県)	2013年4月1日	
大竹市(広島県)	2013年9月25日	
八代市(熊本県)	2013年8月5日	
周南市(山口県)避難施設含む	2014年3月14日	
公立玉名中央病院(熊本県)	2014年6月1日	
廿日市市(広島県)	2015年6月6日	
山口県警察本部(山口県)	2016年10月1日	
三豊市(香川県)	2018年3月23日	
赤磐市(岡山県)	2018年9月1日	
下松市(山口県)	2018年10月5日	
出雲市(島根県)	2019年11月22日	
柳井市(山口県)	2020年1月1日	
避難施設の協定		
市・町名	締結日	
中津市(大分県)	2011年8月25日	
藍住町(徳島県)	2011年11月21日	
呉市(広島県)	2012年2月20日	
別府市(大分県)	2012年4月27日	
大竹市(広島県)	2012年11月27日	
廿日市市(広島県)	2015年6月6日	
広島市(広島県)LECT	2017年6月7日	
下松市(山口県)	2018年10月5日	
福山市(広島県)	2019年6月28日	
出雲市(島根県)	2019年11月22日	

虐待防止へ行政と協力

児童虐待の防止や早期発見に向けて、山口県は「やまぐち虐待防止全力宣言企業登録制度」を創設。イズミもこの取り組みに賛同し、2020年11月6日に登録証の交付を受けました。小売業を通じた社会貢献の一つとして、見守りや子育てで支援に取り組んでいます。



テナント様と共に一層の飛躍を



お取引先様との共存共栄めざす「専門店オーナー会」

2016年10月に広島で初開催し、2018年11月に東京で行われた「イズミ専門店オーナー会」。「ゆめタウン」のテナントオーナー様にご参加いただき、イズミの方針を紹介すると同時に、お客さま満足度の向上に向けて意見を交換しました。2020年はコロナ禍により中止しましたが、2021年にオンラインで実施。約20社のトップの方々と個別に会談し、お互いの取り組みを深く共有することができました。



オンラインでの専門店オーナー会の様子

専門店オーナー会
オンライン参加企業
約20社

コロナ危機を乗り越ろう

臨時休業を含めた、さまざまな安全対策を実践

接触機会低減のために臨時休業

2020年4月22日の政府専門家会議の提言を受け、接触機会低減の徹底に向け4月25日～5月6日に専門店を臨時休業しました。



専門店エリアを全面的に休業

業種に対応した取り組み

小売業の専門店さまでは、売場の入口と出口を制限したり、検温を行ったりといった対策を実施。飲食店さまではテーブルの間隔をあけ、お客さま同士がソーシャルディスタンスを保てるように配慮。業種に応じて有効な対策を練り、各店舗で実施しています。



テーブルの間隔をあけた飲食店



小売店では、入口と出口を制限し、密集を防止

フードコートにアクリル板設置

多様な味が楽しめるフードコートは、席数を減らして営業を継続。アクリル板を設置し、テーブルの消毒も定期的に行っています。



フードコートでの消毒の様子

館内各所を定期的に消毒

広い館内でお客さまに安心してお買物を楽しんでいただくため、ソファや手すり、買物カゴなどを定期的に消毒しています。また、各所にアルコール製剤を設置し、お客さまに手指の消毒をお願いするほか、キャッシュレス決済をおすすめしています。



ソファの座席を消毒



手すりも定期的に消毒

投書箱を設置し公正な取引を推進

イズミ本社に、お取引先様にご意見をいただくための用紙と投書箱を設置。公正な取引を推進するため、商談やお取引に関することや従業員のマナー、店舗運営など、どんな内容でも率直に遠慮なくお申し出いただけます。



お取引先様用の投書箱

チャリティー募金で視覚障がい者支援

中国放送と九州朝日放送、西日本放送と共同で、視覚障がい者のみなさまを支援する「チャリティー・ミュージックソン」を毎年開催しています。2020年は12月24・25日に放送が行われ、イズミ店舗には募金箱を設置して協力を呼び掛けました。



店頭設置した募金箱

ホームページで採用活動を支援

テナントのみなさまの採用活動を支援するため、イズミでは店頭で「お仕事相談会」を開催しています。またイズミホームページにテナントさまの求人情報を掲載し、仕事を探していच्छる地域の方々とマッチングを進めています。



イズミホームページの求人サイト

お客さま
地域
テナント
社員



社員が意欲を発揮できる環境を



辞令交付式・団結式をオンライン開催 リモートでも新入社員が一致団結

2020年3月30日、新入社員の辞令交付式を開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮して、テレビ会議システムを活用。本社と広島県、香川県、福岡県、佐賀県にある5店舗の各会場をオンラインで結び、社会人としての第一歩を祝いました。また、2020年9月1日の団結式も、7会場をテレビ会議システムでつなぐリモート形式で開催。新入社員は、カーネギー研修を受講したり、クイズ大会に参加したりして絆を深めました。



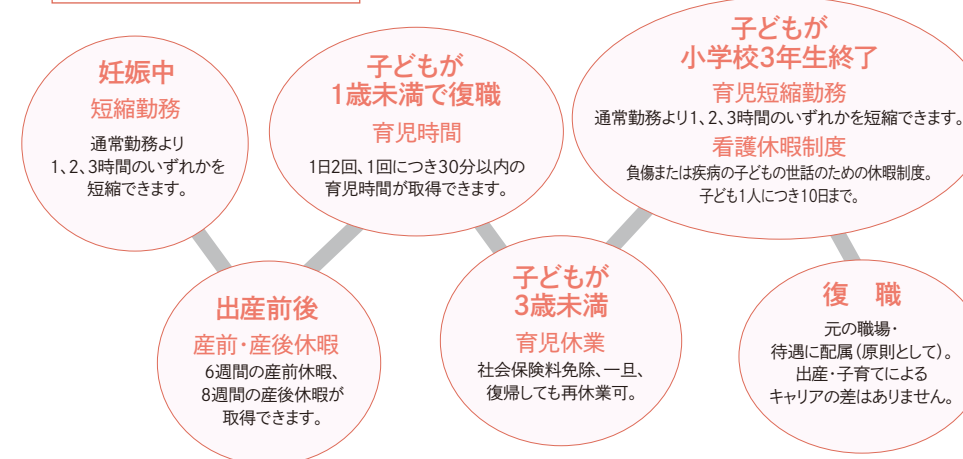
団結式で、画面越しにメッセージを伝える山西社長

辞令交付式
オンライン中継会場数
6会場

子育て・介護と仕事の両立をサポート

1995年から「ポジティブアクション」を推進しています。子どもが3歳までは育児休業、小学校3年生までは育児短縮勤務ができるようにするなど、両立支援制度を年々拡充。2018年には両立支援制度をまとめた「パパママ応援BOOK」を作成し、2019年にはイズミ初の従業員向け保育施設を開設しました。職場には「子育てや介護に頑張る同僚をサポートしよう」という精神が根付いています。

イズミの育児休業制度



オリジナル読本の
「パパママ応援BOOK」

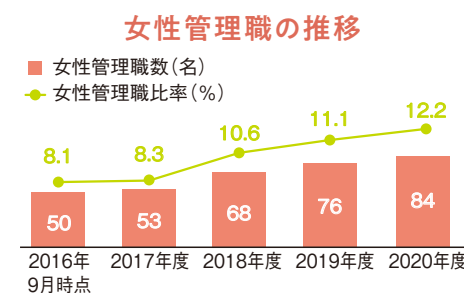
円滑な職場復帰を支援 育休者向け意見交換会

育休者の円滑な職場復帰を支援するために各種企画を実施。2019年の「びよびよフォーラム」では、参加者が人事部との意見交換を通して、復帰前に不安を軽減することができました。



女性のキャリア形成を促進 「ゆめCanプロジェクト」

イズミでは「女性管理職比率を20%以上にする」という目標を掲げ、2014年に「ゆめCanプロジェクト」(女性活躍推進プロジェクト)を立ち上げました。その取り組みの一つとして、管理職をめざす女性社員向けの「女性リーダー育成研修」を実施。マネジメントスキル向上の後押しをしています。



真剣な眼差しで研修に参加する女性社員

従業員向け保育施設 2園目が開園

2021年4月1日、「ゆめタウン廿日市」内に「ゆめジャングルほいくえん」が開園しました。企業主導型保育施設としては「ゆめタウン光の森」に続く2園目です。「北欧×ジャングル」をイメージした緑あふれる開放的な空間で、利用者からは「出勤と同時に子どもの送り迎えができる」と好評です。毎週水曜以外は土・日曜も開園し、生後2カ月から小学校入学前のお子さんを預かっています。



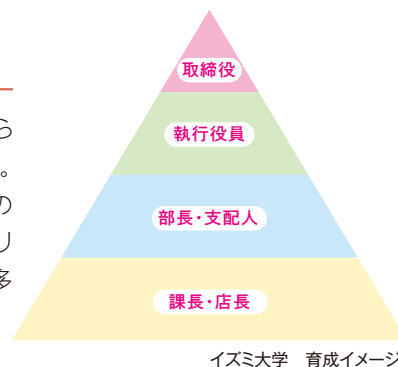
にぎやかに開園式を行いました



社員が意欲を発揮できる環境を

経営者を育成 「イズミ大学」開校

2021年7月、将来の経営幹部を社内から育成するため、「イズミ大学」を開校します。課長・店長、部長・支配人、執行役員などの3つの段階で、選抜したメンバーが2年間のカリキュラムを受講。社内・社外プログラムで多彩に学び、経営者意識を養います。



イズミ大学 育成イメージ

支配人塾でリーダーの役割を学ぶ

2020年11月18日、能力開発課の主催で「支配人塾」が実施され、20名が参加しました。大型店の支配人経験があるOBが講師となり、リーダーの役割について講演。「you me MIRAI宣言」の説明や、支配人が会社への提言をする時間もあり、有意義な場となりました。



熱心に受講する支配人の皆さん

意欲高めるキャリアアップ制度

性別に関係なく、高い能力と意欲を持つ人材を役職に登用するため「役職者登用基準の明確化(ライセンス制度)」を実施。主任や店長などをめざす従業員は、研修とテストで能力を磨き、ライセンスを取得します。また、パートナー主任や女性管理職も続々誕生。こうした取り組みが評価され、2017年には女性活躍推進優秀企業認定「えるぼし」の最高位「3段階目」を取得しました。



管理職登用検定の様子

キャリア中断を防ぐ 不妊治療休職制度新設

働きながら不妊治療に取り組むことが難しい女性社員のために、2021年2月、不妊治療休職制度を新設しました。最長1年間休職して不妊治療に専念でき、退職やキャリア中断が防げます。

日頃の成果を披露する コンテストや発表の場

従業員の意欲と技術を高めるため、食品レジの「チェッカーコンテスト」や、食品部門の「生鮮技能コンテスト全社大会」などを開催。イズミグループが一体となり、切磋琢磨しています。また、「ゆめ感動物語」では、パートナー社員自らが気付き、現場を改革した事例を発表。その成果は、店舗運営に反映されています。



「生鮮技能コンテスト全社大会」の出席者

30周年記念論文の 発表会を開催

イズミでは、従業員が自ら学び、自発的に行動し、またその経験を自分の言葉で発表することを大事にしています。2020年には、ゆめタウン30周年を記念して論文を募集。日々の仕事で感じたこと、心に残ったお客さまとの出会い、働きがいを感じたエピソードなど、多数の論文が集まりました。11月6日には、イズミ本社で発表会が開催され、優秀な作品を提出した7名が思いを述べました。



仕事に対する熱い思いを発表

コロナ危機を 乗り切ろう

イズミ本社や店舗バックルームでも対策実施

■テレワークで50%削減

本社では、通勤や職場での3密を防ぐため、出社人員を50%削減。執務スペースの机の間隔もあけています。



■食堂の席は非対面配置

食事中(マスクを外した状態)の飛沫感染や密集・密接を防ぐため、テーブル・座席の間隔をあけ、対面しないような配置にしています。



ポケットサイズで
携帯しやすいハンドブック

業務カイゼン事例を共有

各店舗の好事例を報告する「カイゼン報告会」を開催しています。2020年はテレビ会議システムで各店舗を結んで実施。特定の課に所属しない「食品スタッフ」を新設した「ゆめマート西栄」の事例などを共有しました。



オンラインで取り組みを共有



「ゆめマート西栄」の「食品スタッフ」

自動発注システムで効率アップ

2019年より、発注作業の大幅な効率化に向けて「需要予測型自動発注システム」の導入を進めています。自動発注は精度が高く、品切れ防止にも効果的です。発注作業を効率化することで、接客やサービスに関わる人員を手厚くすることができ、よりよい店づくりにつながります。



コンパクトな自動発注端末

長年の経験を生かせる 定年再雇用制度

イズミでは「高齢者雇用安定法」に沿って、「定年再雇用制度」を導入しています。本人が希望する場合、満60歳に達した正社員・パート社員は、定年後も65歳まで再雇用されます。パート社員の時給据え置き制度や、評価に応じた昇給制度など、ベテラン社員が意欲的に働ける環境を整備しています。

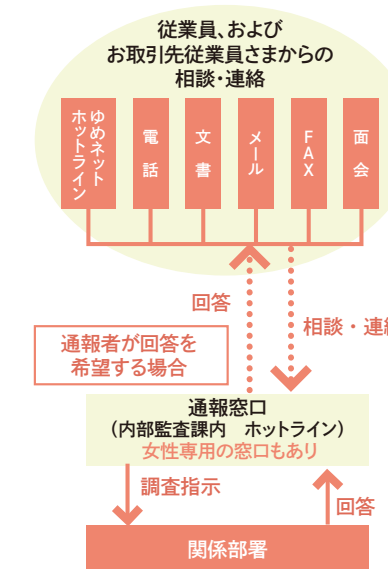
1 本人が希望すれば、
誰でも安心して65歳まで勤務
することができます。

2 定年前までのみなさんの頑張りを
生かすため、パート社員の
時給は据え置きます。

3 定年後も評価に応じた昇給を
行うので、意欲が高くなります！
(正社員・パート社員共通)

社内に設置 ホットライン相談窓口

従業員やお取引先従業員さま向けに、社内に「イズミホットライン」を設置。パワーハラスメント行為の相談も受け付けています。





かけがえのない地球を守るため、イズミグループではお客さまや地域のみなさまと一緒に環境保全活動に取り組んでいます。店舗を中心にCO₂排出量削減や省資源化を推進しこれからも環境負荷低減に向けて、アクションを起こし続けます。



脱炭素社会に向けて CO₂排出量の削減を推進

■ 屋上で太陽光発電を実施

再生可能エネルギーの利用を進めるために、有効な手段の一つが太陽光発電です。2015年にオープンした「ゆめタウン廿日市」では、イズミ初の試みとして店舗屋上に350kW発電パネルを約2,900㎡の規模で設置。小型のスーパーマーケット1店舗分に相当する電気が発電でき、CO₂排出量の抑制に貢献しています。



発電パネルの
設置面積
2,900㎡

日当たりのよい屋上に太陽光パネルを設置



イズミ本社のパネルで
発電量を表示

リサイクル情報を紹介する
「ゆめタウン廿日市」のパネル

■ 「見える化」で環境意識向上



「ゆめタウン廿日市」のエコステーションでは、パネルに太陽光発電の発電状況やリサイクル情報を表示しています。イズミ本社では、従業員向けに消費電力量などをリアルタイムで紹介。いずれもより多くの方に環境意識を高めていただくために、情報を「見える化（可視化）」しています。

■ 物流センター統合で省エネ



2015年に4つの配送センターを統合して開設した「イズミ広島物流センター」（広島市西区）は、運輸部門で効率化を進めるための重要施設です。1台のトラックにドライ商品とチルド商品を混載して店舗に届けることで、大幅な輸送車台数削減を実現。省エネとCO₂排出量削減に効果を発揮しています。また、段ボール使用量を減らすため、プラスチック製の折りたたみコンテナを使用。省資源に貢献しています。



効率的な輸送を推進する「イズミ広島物流センター」

■ 電気式の空調設備を導入



従来型の重油式空調設備を設置している既存店では、リニューアルなどの際に電気式空調設備への更新を進めています。電気式空調設備の導入により、CO₂排出量を約半分に削減。地球温暖化防止に努めます。



従来型の重油式空調設備



現在導入を進めている電気式空調設備

■ 冷蔵・冷凍ケースを一元管理



食品の品質を守ると同時に、陳列棚としての役割も果たす冷蔵・冷凍ショーケースは、売場に欠かせないアイテムです。「インバーターエコシステム」を全店で採用し、一元管理で庫内温度を適切に保ちながら、消費エネルギーを抑制する最適運転を行っています。



冷蔵食品用の冷凍ショーケース

■ 「クールビズ」で省エネ



「ゆめタウン」では、夏季にノーネクタイのビジネスウェアを展開し、冷房時の室温を28度に設定する「クールビズ」を提案。イズミ社員も軽装で勤務して省エネに取り組んでいます。冬には暖房時の室温を20度に設定する「ウォームビズ」を推進。機能的な肌着などを紹介しています。



毎年好評の「クールビズ」売場

■ 店舗を充電スポットに



CO₂排出量削減に向けて、利用者が増えている電気自動車。イズミでは、充電スポットを「ゆめタウン光の森」「ゆめタウン博多」「ゆめタウン高松」「ゆめタウン廿日市」「ゆめタウン広島」「LECT」など17店舗に導入しています。今後も設置店舗を増やす予定です。



「ゆめタウン廿日市」の充電スポット

■ 次世代型の有機EL照明



イズミでは全店でLED照明を採用。時間帯ごとに店内照度を自動制御するスケジュール調光システムを活用し、消費電力削減に取り組んでいます。また、次世代型の照明として期待される有機EL照明を「ゆめタウン廿日市」で試験導入。快適さと省エネへの有効性を検証中です。



有機EL照明を「ゆめタウン廿日市」の授乳室に設置

■ 太陽光発電の余剰電力を電子マネーと交換



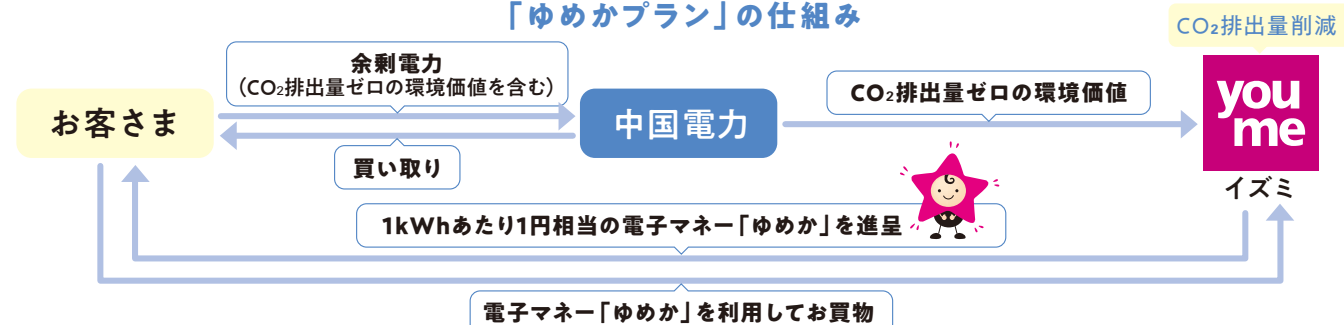
イズミは中国電力と連携し、2019年11月に「ゆめかプラン」を開始しました。ご家庭の太陽光発電による余剰電力を中国電力が買い取り（2019年度実績は税込7.15円/kWh）、さらにイズミから1kWhあたり1円相当の電子マネー「ゆめか」を進呈するサービスです。中国電力は、買い取った余剰電力に含まれるCO₂排出量ゼロの環境価値※をイズミに提供。イズミはこの制度を活用し、店舗運営にかかるCO₂排出量削減を進めています。

※「環境価値」とは、再生可能エネルギーの環境負荷の小ささを評価する価値



家庭用の太陽光発電パネル（イメージ）

「ゆめかプラン」の仕組み





省資源化を進めるために

地域と一緒にリサイクルを実践

■ 全店に回収ボックスを設置



貴重な資源を廃棄せず、再資源化するための拠点となっているのが、全店の店頭で設置した回収ボックスです。日々、多くのお客さまがお買物のついでに、牛乳パックや食品トレー、ペットボトルなどをご持参くださっています。これからもイズミは容器回収・再生を推進。循環型社会の実現に貢献していきます。



お客さまに親しまれている回収ボックス



72店舗
に設置

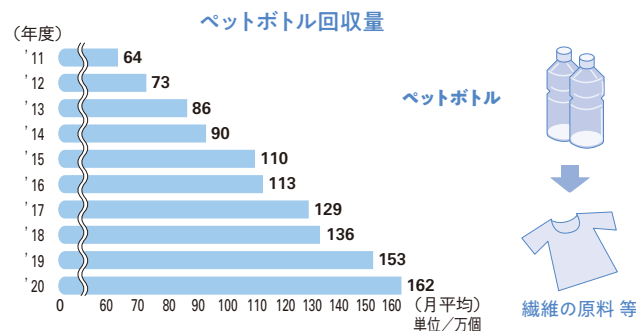
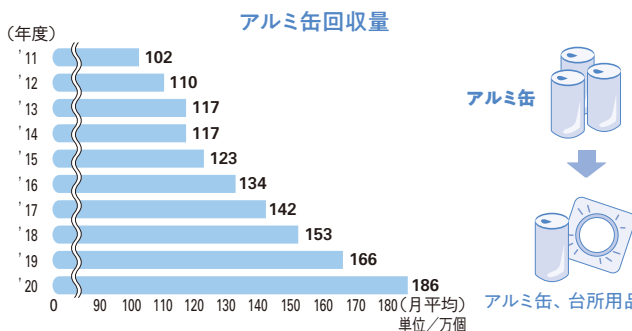
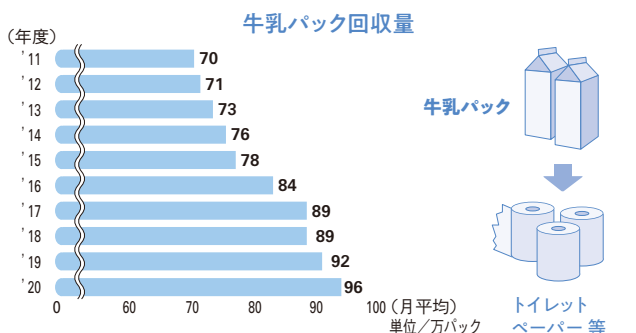
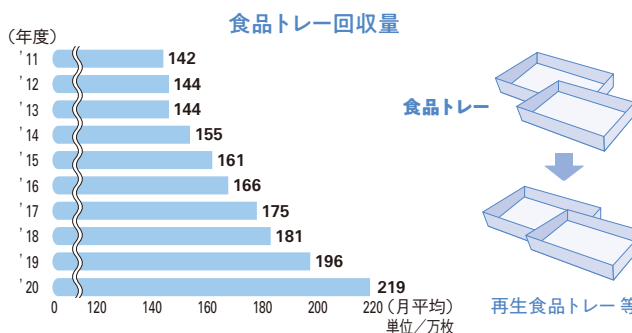
お買物ついでに利用できる「エコ・ステ」

■ 「エコ・ステ」で古紙回収



現在72店舗（2021年5月現在）に設置されている、古紙回収ステーション「エコ・ステ」。ご持参いただいた古紙の重量に応じて、ポイントを差し上げています。気軽に資源回収に参加できる点と、ポイントをお買物にご利用いただける点で、好評をいただいています。
※「エコ・ステ」とは、「エコステーション」の略です

■ 店頭での容器回収量



■ 衣料品回収キャンペーン開催



「ゆめタウン」で毎年数回開催している衣料品回収キャンペーンが好評です。ジャケットやパンツ、バッグなど、不要になった衣料品を最大10点までお引き取り。お客さまには感謝を込めて、500円分のクーポン券を3枚進呈しています。回収した衣料品は、リユースやリサイクルなどで有効活用しています。



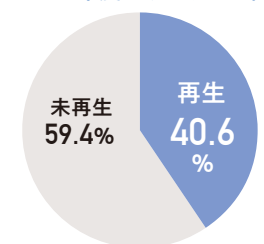
専用カウンターで回収

■ 食品廃棄物を肥料や燃料に



魚のあらや野菜くず、廃油などの食品廃棄物は、資源として有効活用するため、徹底して分別管理をしています。廃油は大半が飼料になり、一部は福岡県の株式会社フチガミ様でバイオディーゼル燃料に再生。廃油以外の食品廃棄物は、専門業者で肥料に生まれ変わっています。2020年度はトータルで40.6% (3,065t) をリサイクルしました。

2020年度のリサイクル率

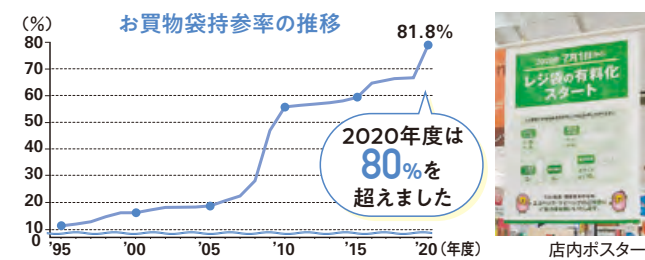


廃油再生委託先の株式会社フチガミ様

■ レジ袋の無料配布を終了



イズミでは1997年から、地域のみなさまと協力してお買物袋持参運動に取り組んできました。その結果、持参率は81.8%にまで増加しています。2020年7月1日からは、全店でレジ袋無料配布を終了。バイオマス原料を25%配合したレジ袋を、有料で配布しています。一層の環境負荷低減に取り組んでいます。



■ ギフトのエコ包装を提案



お中元やお歳暮の売場では、のし紙や包装紙などを省略したエコ(簡易)包装へのご協力を呼び掛けています。省資源・環境保全に対する地域のみなさまの理解が進み、2020年度は夏のギフト77.5%、冬のギフト78.1%がエコ包装になりました。母の日や父の日、敬老の日などのギフトでも、簡易包装を選ぶお客さまが増えています。



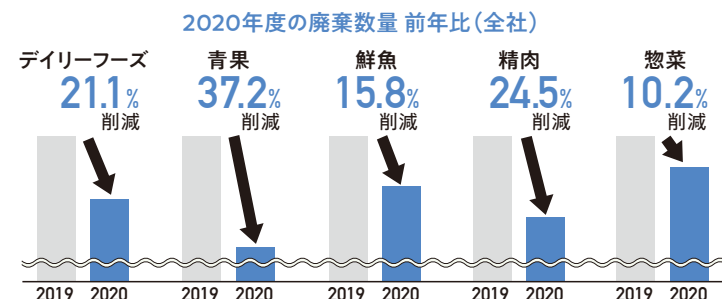
■ 食品ロスを「見える化」



イズミの精肉、鮮魚、青果、デリーフーズで、2019年4月から食品廃棄量を毎日「見える化(可視化)」しています。廃棄量を全員で把握して意識を高め、消費期限が迫った商品を「売切り平台」に集めて売り切るなど、対策を実施。青果では前年比で約37%も食品ロスを削減できました。今後もこの取り組みで、資源の有効活用を進めます。



節約志向のお客さまに好評の「売切り平台」



■ 「フードドライブ」活動に協力



「フードドライブ」とは、ご家庭で余っている食品を持ち寄り、必要としている福祉団体・施設などに寄付する活動です。イズミでは、ゆめmart全37店舗で2021年4月15日から回収ボックスを設置。お客さまからお預かりした食品は、各地域のフードバンク団体を通じて寄付しています。ご家庭の「もったいない」を地域の「ありがとう」に変え、持続可能な社会をめざしていきます。



「ゆめmart二葉の里」の回収ボックス

基本方針を全従業員で遵守

ルールを守り、みなさまと信頼関係を構築します。

社会的責任を果たすための基本方針

1) 将来への成長・飛躍をめざして、変化への対応・挑戦・スピードのある経営を推進・実践していきます。そのために、地域の生活文化の中心として、夢づくり・街づくりをテーマに企業活動を行い、店舗展開することを社会的責任を果たすための使命とし、地域のよさを最大限に生かしながら、地域一番店をめざします。

2) 企業活動では、コンプライアンス経営を基盤とし、お客さま・地域社会・株主のみなさま・お取引先様との信頼関係の構築に努めます。
3) 役員および社員は、地域への貢献を誇りとし、人間的成長につながるやりがいを生み出し、お客さまに喜んでいただけることを生きがいとして、地域のみなさまの声を店舗に反映していきます。

1 法令を遵守して業務を遂行

イズミグループでは、法令を遵守しながら日々の業務を行うよう、「行動憲章」を制定。コンプライアンス・リスク管理委員会を中心に、全社員で学習を進めています。

【イズミグループ行動憲章】

- 1 社会にとって有益かつ安全な商品とサービスを提供し、お客さまの信頼と満足を確認します。
- 2 自由競争のもと、公正な取引に努めます。
- 3 顧客情報、内部情報が適切に管理される体制を構築します。
- 4 株主はもとより社会に対して、企業情報を積極的かつ公正に開示します。
- 5 自然(地球)環境に配慮した行動に努めます。
- 6 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、断固として対決します。
- 7 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律を遵守し、文化や習慣を尊重して、その地域の発展に貢献します。
- 8 創業の精神に則り、お互いを尊重し、謙譲の気持ちをもって行動します。
- 9 国内外の法律を遵守し、社内規則ならびに社内規範・企業倫理等のルールに従い、「人としてやってはいけないこと」を判断できる誠実な企業人をめざします。
- 10 経営トップは本憲章の精神を実現するため、社内外の声に耳を傾け、遵法文化形成のために社内体制の整備を行います。

2 個人情報保護を徹底

店舗などでお預かりしたお客さまの大切な個人情報を守るため、イズミグループの社員ならびにお取引先様と、共通の指針に沿って取り組んでいます。

【イズミのプライバシーポリシー】

- 1 弊社がお客さまからいただいた個人情報は、ダイレクトメールなどの宣伝物の送付、商品・催事情報などのご案内、アフターサービスなどに利用させていただきます。
- 2 弊社は、個人情報の取り扱いに当たっては、漏えいなどがないように安全な管理に努めます。
- 3 弊社は、お客さまの個人情報を第三者に提供する場合、お客さまから同意を得ます。ただし、法令などに基づく場合などの正当な理由がある場合は除きます。
- 4 弊社は、個人情報の取り扱いに関する業務を委託する場合は、委託先が個人情報の保護と安全管理を行うように監督に努めます。
- 5 弊社は、個人情報の取り扱いについては必要に応じて随時改善、変更を行うことがあります。
- 6 弊社は、お客さまから個人情報の開示、訂正等を求められたときは、合理的な範囲ですみやかに対応いたします。

3 エコ活動実践の指針

イズミでは、グループ社員全員で環境への取り組みを共有するため、環境理念・環境方針を定め、共に学び、共に業務の中で行動に移しています。

【環境理念】

イズミは、環境問題への取り組みが社会的責任を果たす最も基本的な活動と考え、地球市民として使命感に基づき、社員一人ひとりが自発的に行動し、環境保全活動の実践に努めます。さらに地域のみなさまと協力し、環境負荷の軽減と循環型社会の構築をめざしていきます。

【環境方針】

イズミは、商品やサービスおよび店舗づくりを通じて環境保全への取り組みと、地域周辺の自然・環境との調和に努めます。また、環境保全活動を通じて、お客さまから信頼される企業をめざします。

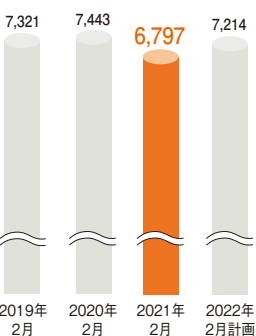
- 1 環境に配慮した安全安心な商品・サービスの提供に取り組みます。
- 2 環境に配慮した店づくりをめざし、省資源・省エネルギーに取り組み、廃棄物排出の抑制、リサイクル活動に努めます。
- 3 再生素材を推進し、環境への負荷が少ないものの購入および使用を行い、資源の有効活用を努めます。
- 4 地域のみなさま・行政と協力し、環境保全活動を推進し、社会貢献に努めます。
- 5 社員一人ひとりが環境に配慮した取り組みの実践および継続的な改善に努め、環境に関連した法規制を遵守します。

株主のみなさまと積極的に対話

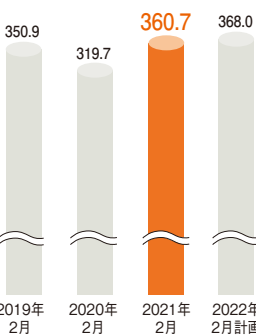
双方向性のIRコミュニケーションを進めます。

イズミグループ業績概要

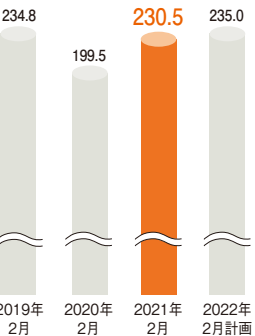
連結営業収益 (単位:億円)



連結経常利益 (単位:億円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:億円)



◆株主優待制度による利益還元

イズミでは、利益成長に応じた配当金に加え、株主優待券やギフト券の贈呈を行っています。また長期保有特典制度も新たに導入しました。

ご所有株式数	一回当たりの贈呈額	
	株主優待券の場合	ギフト券の場合
100株以上	20枚 (2,000円相当)	500円
200株以上	30枚 (3,000円相当)	
300株以上	40枚 (4,000円相当)	
400株以上	50枚 (5,000円相当)	
500株以上	60枚 (6,000円相当)	
1,000株以上	100枚 (10,000円相当)	2,000円
2,000株以上	200枚 (20,000円相当)	
3,000株以上	300枚 (30,000円相当)	
4,000株以上	400枚 (40,000円相当)	
5,000株以上	500枚 (50,000円相当)	
6,000株以上	600枚 (60,000円相当)	
8,000株以上	800枚 (80,000円相当)	
10,000株以上	1,000枚 (100,000円相当)	

■長期保有特典制度

ご所有株式数	自社商品券の場合	ギフト券の場合
300株以上	2,000円	500円
1,000株以上	4,000円	1,000円

■泉美術館ご招待券の贈呈

上記とは別に、泉美術館ご招待券を贈呈しています。

※「株主優待券」は、1,000円以上お買い上げにつき、1,000円ごとに各1枚(100円券)をご使用いただけます。「株主優待券」「自社商品券」の対象店舗はイズミ全店、ゆめマート熊本、ゆめマート北九州、ユアーズ、その他。
※「ギフト券」は全国でご利用いただけるものを贈呈いたします。
※長期保有特典制度では、現行制度で株主優待券をお選びの方には自社商品券、ギフト券をお選びの方にはギフト券を贈呈します。

◆IRコミュニケーションを推進

イズミでは経営企画部にIR専任担当者を置き、定期的に経営戦略や業績に関して株主・投資家のみなさまとの対話を実施しています。年2回アナリスト・機関投資家向けの決算説明会を実施している他、個人投資家向けには会社説明会を開催すると共に、証券会社が開催する個人投資家セミナーへ参加しています。また、海外投資家向けに証券会社の主催するコンファレンスに参加している他、英語による情報開示についても積極的に取り組んでいます。

■ホームページへの掲載情報

月次売上、決算資料、業績推移、株式情報、株主総会、IRカレンダー、決算公告、IR information (English)、ニュースリリース、株価情報

■IR情報に関するURL

<https://www.izumi.co.jp/corp/ir/>



マスコミ向け決算発表会の様子



日本語と英語で
アニュアルレポートを毎年発行

効果的なチェック体制を構築

リスク管理を行い、企業価値の最大化を図ります。

1) 基本的な考え方

お客さま満足の実現を通じて企業価値の最大化を図ること、株主やお取引先様、社員などのステークホルダーのみなさまのご期待にお応えしたいと考えております。同時に、高い倫理観をもって社会的責任を果たしつつ、地域社会へ貢献します。

このような理念のもと、経営組織や諸制度を整備し透明性・公正性を高めることを重要な課題の一つと位置づけております。そして、取締役会の監督機能の強化、財務の信頼性の確保、業務の有効性と効率性の向上に取り組んでいます。

2) 業務執行、監査等の状況

当社は監査役会設置会社であり、取締役8名（うち社外取締役3名）ならびに監査役3名（うち社外監査役2名）で構成し、取締役会は原則として月1回開催し、充実した審議と取締役の職務執行に関する監督が行われています。取締役会においては、監査役に対して取締役会議案に対する客観的な意見を求めると共に、監査役が取締役の意思決定および業務執行状況の監査をしています。

また、取締役8名の中から代表取締役1名を選定し、代表取締役の下に執行役員12名を選任して業務執行にあたらせております。取締役（社外取締役を除く）で構成する経営会議および取締役（社外取締役を除く）と執行役員で構成する本部長会議を原則毎週開催し、業務執行について機動的な意思決定を行っています。当社グループ会社の経営状況につきましては、当社社長とグループ会社社長との間において3カ月に1回の報告を義務づけ、

また、当社グループ経営本部とグループ会社社長との間で毎月1回の経営課題に係る対応策を協議することを義務づけています。

さらに、適正かつ効率的に経営監視機能を行うために、4名の顧問弁護士による経営に関する助言・指導をいただいています。

3) 内部統制システム・リスク管理体制の整備状況

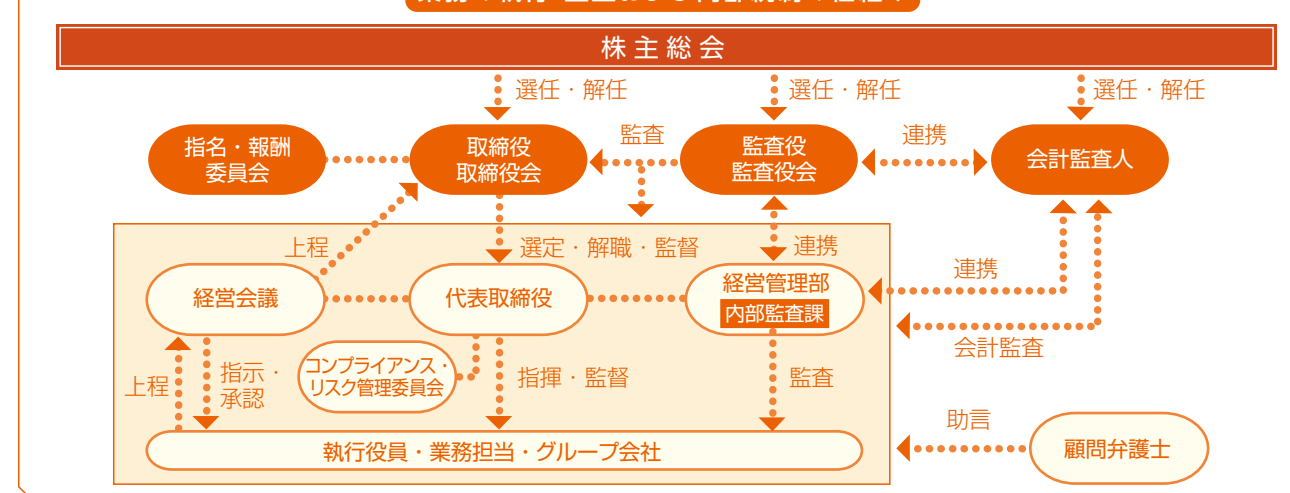
内部統制システム・リスク管理体制の整備状況につきましては、次のとおりです。

■各事業本部とは独立した経営管理部が主管となってコンプライアンス・リスク管理委員会を毎月1回開催し、当社各部門ならびにグループ会社から選出されたコンプライアンス・リスク管理委員出席の下、当社グループ全体のコンプライアンス教育およびリスク管理のモニタリング活動報告について審議しています。当委員会の議事内容については、取締役および監査役に報告しています。

■イズミグループ行動憲章を定め、当社およびグループ会社の取締役・従業員の行動規範として、事業活動における法令遵守に努めています。また、法令遵守の徹底・意識向上のため「イズミホットライン」（内部通報制度）を設置し、当社およびグループ会社からのさまざまなリスク発生の未然防止に努めています。

■事業活動において生じたさまざまなリスクへの対応については、お客さまの安全確保、被害の最小化を主たる目的として、全社連絡体制を整備して対処しており、地震等の災害時においては直ちに緊急対策本部（本部長は代表取締役社長）が設置される仕組みとなっています。

業務の執行・監査および内部統制の仕組み



私たちの「you me」が これからも続いていきますように

2021年に創業60周年を迎え、改めてイズミの使命は
「みなさまと共に成長していくこと」だと思います。

イズミにつながる全てのステークホルダーの夢に寄り添い

未来を“より価値あるもの”にするため

私たちはこれからも、常に全力を注いでいきます。

2021年以降「時間消費型」の店づくりに取り組みます。

2017年にオープンした「LECT」は、買物だけでなく、体験型イベントなどが楽しめる「時間消費型」の店です。2020年はコロナ禍により全国的にショッピングセンターの客足が遠のく中、「LECT」では来店客数が増加。私たちは消費者のニーズを読み解き、2021年以降“その瞬間”“その場所”でしか味わえない価値を提供する「時間消費型」の店づくりを推進していきます。